

ネパールのシニアボランティア 2年間（6－2）*

－ネパールヒマラヤのカリガンダキ河に沿って歩く－ ジョムソン－ムクチナート間－
吉田 勝 （橋本市）

ジョムソンからムクチナートへ

ジョムソンはすでにヒマラヤの主峰を含む高ヒマラヤ帯を飛び越して、その北側のテチスヒマラヤ帯にある。まわりは河沿いに灌木が茂り、山の斜面には

1 km以上ある広々としたカリガンダキ河の右岸、左岸に沿って（図1、2）約4時間で、ムスタン王国（ネパールの中の独立的行政区）の入り口で知られるカグベニの村に着く。振り返るとジョムソンの裏手に聳えていたニルギリ峰（7150m）が見事である（図3）。村の後ろはモレーン堆積物源の高い（河床から比高約150m）段丘斜面、対岸は約1億年前のテチス堆積岩類が急で高い（数百m）見事な全露頭を見せている（図4）。



図1 カリガンダキ河に沿ってカグベニへ（1）



図2 カリガンダキ河に沿ってカグベニへ（2）



図3 カグベニから見るニルギリ峰



図4 カグベニ村を出発

わずかな枯れた草があるだけで、あとは荒涼とした岩と砂の世界である。

* PASPORT（東京海外旅行研究会会報）
No.168（2007.5）77－79

ここから真北、本流に沿って遡るとムスタン王国の首都、ロマンタンまで約3日間の道程である（ムスタン王国への関門を通るには1人700ドルの入場税を払わねばならない）。村の裏手から東に高いテラスに上っていく道は、ヒンドウ教の聖地ムクチナート寺院への巡礼街道で、約4時間の登りである。高度があるので（3800m）ジョムソン（2800m）まで来た人も、ムクチナートの登りでつぶれてしまうことがある。しかし、高度に弱い人も、馬を使えばなんとかなる場合がある。私たちのメンバーのうち2人は3200m～3400mが限度ということだったが、馬に乗って行ってみると、ムクチナート寺院まで、二人とも全く問題は起こらなかった。馬一頭馬子つきで1日いっぱい借りて1000～1500ルピー（約1500円～2000円）である。



図5 カグベニ南テラスからムスタン方面を望む

ムクチナートへ

カグベニからムクチナートまでは、カリガンダキ河に注ぐ支流のジョン谷の左岸に沿って、河床より150m前後の段丘や山腹斜面にきざまれた小道を歩く。段丘に上がると、北から北東方は砂漠気候のムスタン王国南部、南方にダウラギリ連峰、西はトロン峰などのチベットヒマラヤの白いピークと、360度のすばらしい眺めである（図5、6）。途中本流沿いや小さな支流に沿って、2,3の集落があり（図7）、そこは結構木々が生えて林も見られる。その集落の一つ、クンジョク付近を流れるジャミウダ谷沿いには、有名なアンモナイトの化石産地がある。1mから2m直径のアンモナイト化石も結構普通に見られ（図8）、世界の宝庫だろう。ムクチナートの入り口まで、最後の苦しい坂をがん



図6 ダウラギリを背に調査の一行



図7 ジョン谷に沿ってムクチナートに向かう



図8 巨大なアンモナイト化石の産状

ばって上りきると、ムクチナートの集落が広がり、そのまた 50m ほど上に、かのムクチナート寺院が見える(図9)。村の中を、道沿いに出しているいろいろな露店を見つつ、さらに静かで素朴な境内をのんびり歩いて約1時間で一番上の寺院についた。

本尊を祭ってある小さな寺社(図10)の横では、巡礼者達が行水をしている。聖なる水が流れてきて10前後の注ぎ口に分かれ、居並ぶ信者達の頭に注がれるという具合である。ここは既に高度3900m程で、

気温は0℃前後だろう。信仰の力はたいしたものがある。

トレッキングルートはここから更に高度を上げ、5-6時間で5400mのトロン・ラ(峠)に至り、そこからはマナスルの麓を流れるマルシャンディ河ルートへとつながっている。しかし私たちの調査はムクチナートまでだ。ご本尊に拝礼し、お賽銭をささげてさようなら。下りは高度問題もなく、楽なものである。



図9 ムクチナート寺院と集落とトロン峠



図10 ムクチナート寺院本堂